

えんちょう日記 第6回
「ビオトープ①」
～ めだかの観察 ～

令和7年 10月9日

園庭に設置したビオトープには、毎日いろんなクラスの子もたちが遊びにやってきます。水の中をじっと眺め「めだかさんどこにいるかな?」「見てみて～いたよ!」「ごはん食べるかな?」と、「めだか」を観察することが楽しみの1つになりました。

昨年3月にこのビオトープを設置しました。こちらは水辺の生き物になりますが、もう1か所、木の枝や枯れ葉を住み家とする場所も作っています。生き物が過ごす場所をつくることで、自然の流れのなかでこの場所を求めてくる生き物の観察をしたり、その環境を通して子どもたちがどのようにかかわったりしていくのか様子を見ていくことも目的の1つでした。

設置した当初は、園庭に水辺ができたという珍しさから、手を入れて何があるのか確かめたい気持ち、水のなかに何かを入れてみたい様子がありました。6月頃に、保護者からいただいた4匹のめだかをビオトープへ入れたことで「生きている 命がある」ことを身近に感じることができたように思います。月日が流れ、子どもたちの心には“大事にみようね”“優しくみようね”という思いも芽生えてきました。

4匹だった「めだか」は、今ではたくさんの家族が増えて子どもたちも喜んでいます。四季のうつろいとともにより子どもたちの成長が感じられる場所となりました。



ビオトープを眺めていると、不思議と気持ちが穏やかに落ち着いてきますね





●「こうやって、エサをあげる真似をしたら
ね。めだかは集まってくるよ」

ピオトープをのぞいてみると…
水面にうつる手の下にめだかが集まっていた。
した。



しばらくすると、どろ団子あそびをしていたお友だちがや
ってきました。
どうやらこのポーズに興味をもったようで「自分のところ
にめだかがきてほしい～」と動きを真似て一緒にめだかの
観察がはじまりました。

またどこからか、この様子を見ていた子どもたちが
集まってきました。

○「なにをしていると？」

●「こうやってしたら、メダカがくるよ」(説明)

いつの間にか、エサやりのポーズは片手から両手に
変わっていました。みんな無言のままにじ～っと
集中してめだかの様子を見ています。

子どもたちが不思議に思うこと、発見した時には
“心の動き”がある瞬間。とてもいい表情になって
います。それぞれの感じ方、楽しみ方があるって素
敵なことですね。

